

日本文化宣教協力会 ニュース

発行：日本文化宣教協力会事務局
2015年12月25日発行 第6号

Vol.6

ファミリー歓迎礼拝 in 八潮ホープフルチャーチ

(2015年11月8日)

八潮ホープフルチャーチ 岩崎徹牧師

11月8日(日)の礼拝は、高橋敏夫先生をお迎えして、「茶の湯の心で聖書を読めば」の副題で、歓迎礼拝を持ちました。

聖書を一貫している「神の愛」は、神の「おもてなし」である、との一種の物語風に分かり易く解き明かしていただきました。特に教会の兄弟姉妹の心に残ったのは、人生の終わりに「ありがとう」と言って感謝出来たら良いし、さらに、あとに残される家族を思って、「ごめんね」と言えたらもっと良い、と語っていただきました。朝日新聞の「折々のことば」(鷲田清一氏) (11/7)の、『死んだ』者よりは『死なれた』者の方が、やはり、かなわないのである。つらいのである(秦恒平)と重なって、印象に残りました。

お話の後には、皆で讃美歌「故郷」を歌いました(4節：小野信一師作詞)。

岩槻福音自由教会

(2015年11月22日)

岩槻福音自由教会 伊藤太郎牧師

この秋は当教会に高橋敏夫師をお招きできたことを神様に感謝いたします。

高橋先生はまさに神様が造られた作品です。

歓迎礼拝での説教のご奉仕、愛餐会ののちのフリートーク、聖書はもちろん、キリスト教の歴史、日本の歴史・文化についてその知見の広さ、深さ…。型にはまらない自由さ。

若い牧師、教会員一同、チャレンジを与えられ、しかし心に喜びを与えられました。

「君はわびさびを理解しているか」と問われたときに、自分が日本人として神に生を与えられていることについて再考を促されました。

けれど高橋先生とお交わりをいただき、一番感じたのは生けるキリストへの愛です。

そのキリストへの愛がその自由な立ち振る舞いを生み出し、交わりをいただいたものも、なんだか元気にさせられるのではないか。

今後も神様が存分に高橋先生のご奉仕を用いてくださいますように祈ります。



巻頭言

「中世日本キリスト教会の証人たちの足跡を訪ねて」

日本文化宣教協力会

主幹伝道者 高橋敏夫

2015年後期研修セミナーと中世日本キリスト教会の探索の旅を振り返る。

1. 7月4日～8日：気仙沼の礼拝奉仕と文化セミナー

セミナーは仮設住宅の集会所が満員になるほどで、高山右近と茶の湯の深い関わりを話す。

2. 8月1日～5日：^{ひるぜん}森山バイブルセンターでの研修会(小林克美 琴浦家の教会主催)。その後、国宝松江城見学と隠岐の島の旅。隠岐の島は流刑された人々の歴史を持ち、戦時中、島の人々は松根油を松の木から得ようとの命令に従った。70年以上を経た松の木の根元の痛々しい傷跡を見て、敗戦の月日を目に焼きつける。

3. 9月17日～23日：札幌・函館セミナーと牧師問安と函館文化研修。札幌では福音自由教会で礼拝と交わりを持ち、^{ひらぎし}平岸バプテスト教会で日本文化宣教のセミナーを持ち、日高で伝道されている下川友也牧師ご夫妻を訪問。

函館では、日本キリスト教団メソジスト派の松本紳一郎牧師と、2016年3月27日の復活祭について語り合う。聖公会、正教会、日本基督教団函館教会、そしてカトリック教会、4つの教派がこの日合同で復活祭を開催できたら、というものであった。北海道新幹線が青函トンネルを通して函館まで開通する記念日の、翌日が復活祭である。

4. 11月13日～19日、播磨室津と高松シオン教会礼拝および修養会、そして高松近隣の牧師先生との意見交換とセミナー。小豆島探索。

1) 播磨室津港は、1587年(天正15年)7月24日、秀吉による伴天連追放令と高山右近追放の危機に際して、第1回室津会議が行われた地である。宣教師オルガンチーノと高山右近は小豆島に一時逃れ身を隠す。室津と小豆島は小西行長の領地でもあり、行長に保護されていたキリシタンたちの証しが数多くあり、特に異彩を放つ灯籠とハート型の^{つくばい}蹲踞には強い興味を惹かれる。

2) 1590年11月の末、ヴァリニャーノと少年遣欧使節は、およそ二ヶ月秀吉の謁見を引き延ばされ、室津にとどまる。この時ヴァリニャーノを中心に小西行長、オルガンチーノ、高山右近、西国の大名たちとキリシタン商人日比屋了慶らが集まり、これからの厳しい迫害時代にいかにかに備えるかの第2回室津会議が行われたと推察される。この時会議に参加していた古田織部は、日本教会史の陰に潜伏して、千利休の佗茶を通して、文化的キリストの証人となる役割を担い、家康の時代にまでキリシタンの証人となったのではないかと考えられる。そしてそれが発覚して、家康から切腹を命じられたのではないか。このような推論の証拠の数々を、小豆島で今日見ることができる。小豆島に^{いんせい}隠栖していたオルガンチーノと高山右近の、茶の湯を通してのもてなしの姿に思いを馳せる。ハート型の蹲踞と、三位一体と十字架の贖いを刻んだ灯籠の存在に、歴史から消されたキリシタンの信仰が雄弁に語られているのではないか。

サポートのお願い

当協会は、本会の趣旨に賛同する方々の祈りと献金によって支えられ、運営されております。ご支援いただけます方は、同封の振込用紙、または専用の封筒をご利用くださり、お献げいただきたいと存じます。

日本文化宣教協力会事務局

〒344-0067

埼玉県春日部市中央1-5-1-7

春日部福音自由教会内

Tel 048-735-4765

Fax 048-735-4726

Eメール y-gospel@jcom.zaq.ne.jp

郵便振替

ゆうちょ銀行春日部店

口座番号 00140-9-394018

加入者名 日本文化宣教協力会

日本文化宣教協力会 会計報告

自 2015年5月1日 ～ 至 2015年11月30日

収入の部		支出の部	
繰越金	785,644円	事務費	5,271円
献金	420,000円	通信費	1,132円
特別支援献金	33,000円	特別支援金	20,000円
受取謝礼	100,000円	研修費	140,000円
受取利息	83円	奉仕活動費	442,387円
		宿泊費	144,199円
		冊子印刷費	41,040円
		繰越金	544,698円
合計	1,338,727円	合計	1,338,727円

備考：

①研修費@20,000円/月(7か月分)

②気仙沼奉仕(2015年7月4日～6日)

③北海道奉仕(2015年7月17日～23日)

④鳥取奉仕(2015年8月1日～5日)

⑤四国奉仕(2015年11月13日～18日)

日本文化宣教協力会ニュースを、今後はEメールにてお届けしたいと考えています。メールでの配信を希望される方は、協力会事務局までお知らせください。

編集後記

救いの御子のご降誕を覚え、主のみ名を崇めます。今年も皆様の祈りとサポートにより、高橋敏夫主幹伝道者の奉仕が支えられ、協力会主催のセミナーを開催することもできました。私たちの願いとは裏腹に、暗いニュースの多い年であったように感じます。切支丹禁制の高札は、日本人だけでなく、多くの人たちの心にまだかかっているのでしょうか。そのような中でも、世の光であるイエスキリストの福音を宣べ伝えてまいりたいと願っております。2016年の歩みのために、続けてお祈りください。

山田豊